

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月 29日

報告者	学科名	現代福祉	職名	准教授	氏名	樂木章子
研究課題	大学生の海外志向・内向き志向に関する予備的研究：日本とフィリピンの国際比較					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樂木章子	岡山県立大学・准教授	社会心理学	研究全般および総括	
研究実績の概要	分担者					
	<p>本研究では、大学生（岡山県立大学の学生、熊本大学、大阪大学の3大学）の「海外志向性」に関する実態や、その背景についての予備的な調査を行った。具体的には、過去の渡航経験や現在の海外に対する興味や関心（旅行、留学等）などに加え、将来の海外生活に関する志向性（生活、就労、定住等）など中・長期的な視点にも着目し、日本とフィリピンの大学生（University of the Philippines, Mariano Marcos State University, Mindanao State University の3大学）の海外志向性の現状を比較検討した。</p> <p>質問紙項目は文献等を参照しつつ新規の項目も追加したものを使用し、①海外渡航歴と将来の渡航意欲、②海外渡航が自分にもたらすもの、および海外渡航の障壁になること、③自国の社会的認知（災害不安、景気不安、ジェンダー等）、④海外に関連するソーシャル・キャピタル、⑤海外での生活に関するイメージ、⑥語学力・語学へのモチベーション、そして、⑦自国への愛着等についてのデータを収集した。</p> <p>これらの結果を集計し、日本とフィリピンの学生との共通点と相違点の傾向が明らかになったが、多くの項目において相違点が際立った。共通点としては、災害への不安、社会保障の破綻に対する不安、不景気の持続に対する不安、そして、性差別や女性の自己実現に関する課題が挙げられた。相違点としては、将来の渡航意欲、語学力・語学へのモチベーション、そして、自国への愛着等が挙げられた。</p> <p>さらなる分析を加えた結果、さまざまな傾向が明らかになった。下記はその一部である。</p> <p>(1) 日本の大学生はフィリピン人の大学生に比べ、過去経験が豊富で、かつ、大学の渡航へのサポートが充実している。それにも関わらず、日本人大学生はフィリピン人大学生と比べ、将来の渡航意欲が低く、海外で成功する自信も低い。</p> <p>(2) 日本人の大学生は、海外に出るメリットとして「挑戦すること」「専門的な訓練が受けられる」「自立心を高める」、「自信を高めること」と回答する学生がフィリピンの大学生より少ない。</p> <p>(3) 日本人大学生の多くは「景気は回復しそうにない」「将来、高収入の仕事には就けない」と答えているが、「海外でよりよい生活ができる」と回答する学生がフィリピンの大学生少ない。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績 の概要	<p>(4) 日本の大学生は、自国の食料自給率(37%)についてあまり危機感がない。一方、フィリピンの大学生は自国の食料自給率(83%)に対して、不安に感じている。</p> <p>今後は、日本とフィリピンの大学生の共通と相違についてさらなる分析を加えるとともに、特に相違点については、追加アンケートやインタビュー調査等の実施を検討する必要がある。</p>
成果資料目録	